

風土記の丘の花だより⁹⁰

今、そしてこれから見られる植物(2021年6月12日)

長い梅雨の中休みでした。暑いですね。夏日もありました。これからもっと暑くなるでしょう。熱中症予防に配慮して山を歩きましょう。



クマノミズキの白い花が咲いています。園路から梅園を下りきって、少し西(左)に入ると右側に咲いています。また、大日山35号墳の鉄塔から見下ろすと、そこにも大きな木があります。何年か前に和歌山で開催された植樹祭で天皇陛下がお手植えされる木の一つとして選ばれた、和歌山に縁のある木です。名前に「クマノ・熊野」が付きますからね。



足元に黄色い星のような形の花が咲いています。コモチマンネグサの花です。コモチは「子持ち」のことで、葉の腋に小さな芽、いわゆる子どもを持っていることによります。マンネは「万年」で、大変丈夫でなかなか萎(しお)れないことによります。それで、草抜きの好きな人にとっては、いくら抜いてもしつこくて、憎っくき雑草の一つなのです。



ちょっと慌て者のキキョウが6月9日に万葉植物園で1輪だけ咲きました。なんともきれいな色ですね。これをご覧いただく頃には花数もふえていることと思います。秋の七草と言いますが、この暑さの中では、それもイメージしにくいですね。秋の七草といえば、ほかにフジバカマやカワラナデシコも成長してきました。



細長い実と黄色い花のこの草はイヌガラシです。そろそろピークは過ぎていて、花よりも実の方が多いですね。アブラナ科の植物で菜の花や辛子菜などと同じ仲間です。植物の名前に付くイヌはDOGではなく、「役に立たない」という意味です。要するに、「辛子としては使えないカラシみたいな草」という意味です。「イヌなんとか」という植物はほかにもたくさんありますね。
松下